

エイトが著効した変形性手関節症の一例



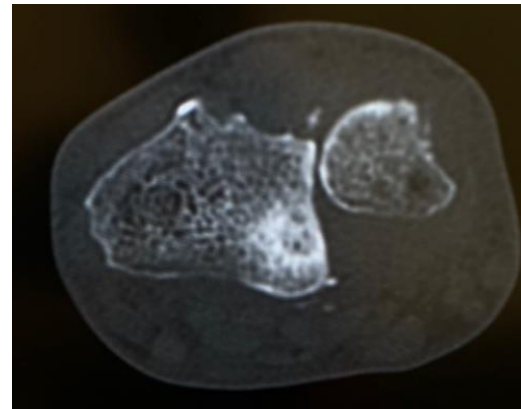
アレックス脊椎クリニック
院長 吉原 潔 先生



【患者背景】

59歳男性

4年前に柔道の試合で右手関節を回外強制され捻挫。当時の詳細は不明だが、遠位橈尺関節脱臼、三角軟骨損傷があったと推測される。受傷当時、整形外科への受診はなく、1-2週間で疼痛はかなり軽減したのでそのまま様子を見ていた。2カ月ほどすると痛みはほとんどなくなり、背中を掻く動作で軽度の違和感が出現する程度であった。ところが一年くらいすると、手関節腫脹と疼痛が出現してきた。その時点で初めて整形外科を受診して検査したところ、尺骨頭は亜脱臼位にあり、橈骨手根関節の関節裂隙は狭小化を呈していた（変形性手関節症）。



【エイトの使用を開始して】

湿布貼付で経過を見て、疼痛がひどい時にステロイドの関節内注射を行っていた。そんな折に当院受診し、半信半疑であったがエイトの使用を開始した。1日1時間で開始したところ、1週間くらいで痛みが半減した。痛みは手関節の使用頻度により増減するが、ひどい時には橈側まで痛むことがある。即効性はなかったが、連日の使用で、確実に痛みは緩和されてきた。また、エイトを3カ月使用しても痛みがゼロになることはなかったが、軽度の痛みであれば即日での疼痛軽減効果を認めた。

【エイトの使用感】

実際の使用に関して、パッドの貼り付けには苦労した。手関節の全周を覆うように4つのパッドを配置するよう心がけた。パッドの貼り付け面は平らだが手関節は丸みを帯びているので、使用中に手を動かしたり、使い回しの両面テープではパッドが脱落してしまう。その予防として、パッドの上から包帯のようなバンドで固定した。それであれば、キーボードの入力作業も難なく可能であった。

【エイトの可能性】

関節変形があるので痛みがゼロで全く正常な状態に回復するのは困難と思われたが、少しでもそれに近づくようにと、手関節とTFCCにPRP（多血小板血漿）療法を3回行なった。その都度、一時的には良くなるが、痛みや腫脹が完全に引くことはなく、使いすぎると痛くなった。金銭的なこともあり（1回5万円）、そうそう繰り返すこともできそうもない。それならば、日常的にエイトを使用する、もしくは痛みが強い時にエイトを使用するほうがいいかもしれないという結論に達した。エイトは医師の指導の下自宅で治療ができる点が最大のメリットだと考えられる。

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスⅡ

（管理医療機器 特定保守管理医療機器）

The logo for 'ait' features the lowercase letters 'ait' in a large, bold, sans-serif font. To the right of 'ait', the words 'aid', 'innovation', and 'technology' are stacked vertically in a smaller, lighter sans-serif font.

株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL contact@p-mind.co.jp